

令和3年度 学習指導・研究について

本校は、前方に雄大な日本海、後方に真山、本山、毛無山の男鹿三山に囲まれた自然豊かな男鹿半島の中心部に位置している。平成4年4月に船川中と椿中が統合して誕生し、平成13年4月には男鹿中中とも統合した。開校当初は生徒数が500名を超えていたものの年々生徒数が減少し、現在は生徒数100名程の小規模校である。

開校以来、「学力の向上が地域の学校への信頼感を高める」という学校経営の基本方針のもと、確かな学力の定着に焦点を当て、20年以上の研究推進を積み重ねながら、その根本に「基礎学力の定着」と「自己学習力の高まり」が確かな学力を支えるものであるとし、「男鹿南中方式のモジュール学習」の研究を進めてきた。

しかし、少子化、グローバル化、情報化と、学校や学校を取り巻く状況も時代とともに変化してきた。これからの学校教育には子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して問題解決していくことや、情報を再構築して新たな価値につなげていくことなど新しい時代に必要となる資質・能力の育成が求められている。

昨年度の研究は、学ぶ喜びを実感して確かな力を培えるように、「自分ごと」と「相手意識」のある学びを創る授業を目指して、全教科が授業の基本プロセスを共有し、「導入」「集団の学びとしての対話」「振り返りとまとめ」「教師のコーディネート」の4過程において工夫する実践を行った。

今年度は、学習指導の3つの重点のもと、昨年度各教科で行った授業の基本プロセスの共通実践を継続し、さらに工夫発展させることとする。

1 生徒について

- 素直で明るく、授業や係、委員会活動、学校行事に一生懸命取り組むことができる。
 - 「勉強は大切だ」「生活や社会に役立つよう勉強したい」「学校が楽しい」の割合が大きく、学年が進んでも変わらない。
 - 「話し合う活動がある」「めあてや課題を立てて取り組んでいる」「振り返る活動行っている」「それらの実践は役立っている」など、研究に関わる項目に関して、「そう思う」という肯定的な割合が大きい。
 - 「勉強が好きだ」「勉強がよく分かる」「自分にはよいところがある」「夢や目標をもっている」の割合が小さく、特に学年が進むごとに小さくなってきている。
 - 学力の通過率が県平均に至らない教科が多く、有意な差が見られる教科もある。
 - 「勉強は大切だ」とは思っているものの、実際にどうすればよいのか分からない。
 - 家庭学習の時間が少なく、特に、土曜日や日曜日の時間が少ない。
- ※2年生は「学校が楽しい」と「勉強が好き」に、3年生は「勉強が分かる」と「勉強が好き」との間に相関関係がある。

2 学習指導・研究の重点と具体的方策

- (1) 「自分ごと」としての学びを充実させる。
 - ・男鹿南中授業スタンダード（秋田の探究型授業）の共通実践
 - ・相互参観授業による一人一授業提示
 - ・年2回の生徒による授業アンケートをもとにした授業改善
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
 - ・年10回のベーシックテストの実施とベーシックタイムの実施
 - ・家庭学習の仕方の（個別）指導による勉強時間と内容の充実
 - ・学習委員会活動や学習集会での授業ルールの確認、他学年への授業参観など学習に対しての意識付け、動機付けを図る場の設定
- (3) 学習と自分の将来を関連付け、生徒のキャリア発達を促す。
 - ・学ぶ意義や学び方を伝え、学んだことを役立てようとさせる授業
 - ・学習効果を実感し、自己効力感が増すような振り返りの場面の活用
 - ・身に付けたい基本的学習習慣（小中一貫）の指導

3 研究主題

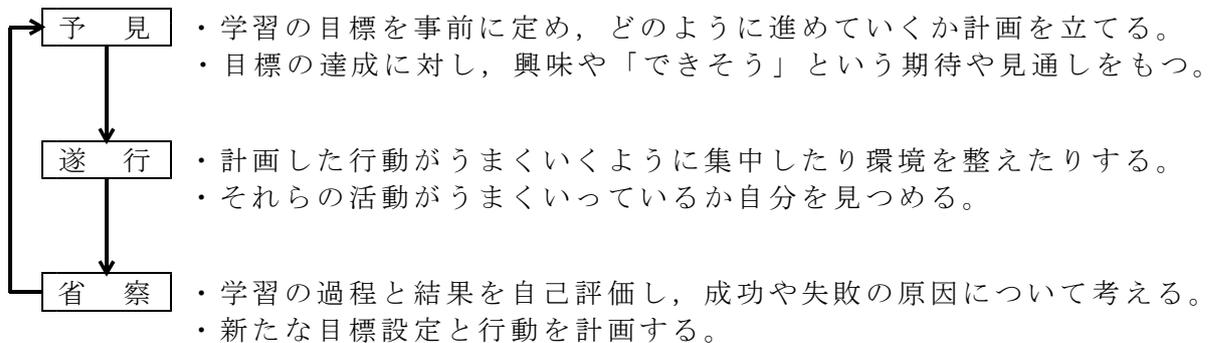
よく学び、他と協働し、自分を見つめることのできる生徒の育成
～「自分ごと」としての学びの充実を通して～

4 教育目標、目指す生徒像と研究主題との関連

【教育目標】	夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 生徒の育成
よく学び	【よく学ぶ，活力のある生徒】 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ喜びを実感し，必要なことを自ら進んで学んでいく。 ・基礎的，基本的な知識・技能を習得する。
他と協働し	【相手の立場や考えを尊重し，他者と協働する思いやりのある生徒】 <ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒と目標を共有し，ともに力を合わせて活動する。 ・相手の気持ちに合わせ，関わるための伝え方を考え工夫する。
自分を見つめる	【高い志に向かって手立てを工夫し，学び続ける生徒】 <ul style="list-style-type: none"> ・自己の学習活動を振り返って次につなげる。 ・学びを自己のキャリア形成の方向性と関連付ける。

「自分ごと」としての学び

「自分ごと」としての学びとは，自ら主体的・能動的に学ぶ自己調整学習である。自己調整学習は，学習を進めるに当たってのエネルギーとなる動機付け，効果的な学習をするための方法や工夫である学習方略，自分を見つめ適切にコントロールするメタ認知の3要素において，自ら関与して進める学習であり，予見，遂行，自己省察の3つの段階のサイクルから構成される Plan-Do-See の型となっている。



「自ら自学習を進める」ということは「自分一人だけで学習を進める」という意味ではなく，他者の力を借りるべき時を知っていて，必要なときには自ら進んで他者の助けを求めたり，仲間と教え合ったりするなど，他者との社会的相互作用を積極的に活用することを意味する。

自分一人でなく仲間と協同学習をすれば，周りの考え方ややり方を見て学んだり模倣したりしてできなかったことができるようになり，一人の時より多くのことができるという考えから，集団の学びの場面において，相手の気持ちや状況に合わせて，より円滑に関わるために伝え方・聞き方を工夫しようとする「相手意識」のある学びも男鹿南中授業スタンダードの対話の過程において意識し，実践していく。

5 研究の仮説

学習において「自分ごととして」の学びを充実させ、授業において男鹿南中授業スタンダードによる次のような手立てを講じることで、よく学び、他と協働し、自分を見つめることのできる生徒が育成されるであろう。

導 入	(生徒にとって)魅力ある課題の設定と出会わせ方(導入)の工夫 ・生徒の意欲を喚起する魅力的で必然性のある課題の設定 ・学習を自分の意思で行うという自律性感覚の喚起 ・活動の見通しをもたせ、解決への意欲の喚起
対 話	積極的に学び合う「集団の学び」の工夫 ・活動の目的を明確にしたワクワク感のある「集団の学び」 ・自分の考えをもち、相手にうまく伝わるよう意識した表現
振り返り まとめ	「個」の学びに生かすまとめと振り返りの工夫 ・課題との関わりから学んだことのまとめ ・自分の成長と学びのよさを自覚し、これからにつなげる振り返り ・生徒の頑張りを認め、価値付ける教師の評価
教師のコー ディネート とファシリ テート	生徒を学びの主体や深い学びへと導く教師のコーディネートとファシリテート ・「自分ごと」としての学びができるよう、授業展開や単元構成のデザインをするコーディネーターと、授業が円滑に進むようにするファシリテーターとしての役割 ・生徒が教師の意図や指示を自発的に取りこみ、学習が円滑に進む教師と生徒との人間関係

6 評価の方法

- 学校評価
- 年2回の生徒による授業アンケート
 - 7月：途中の状況を把握して指導の調整に生かす形成的評価
 - 12月：まとめとしての総括的評価
- 年10回のベーシックテストの合格率
- 家庭学習ノートの提出率や内容
- 県学習状況調査、全国学力学習状況調査などの調査